

ホルスタイン種子牛にみられた肺静脈口の膜様構造

物形成と心房中隔欠損：飯田家保 三木一真

管内一酪農家で2014年8月1日生まれの虚弱子牛に呼吸浅速、心雑音、肺ラッセル音、起立及び哺乳困難等の症状を認め誤嚥性肺炎を疑い抗生剤及びステロイド剤を投与するも回復せず、頸静脈怒張、心収縮期雑音、頸・腹部膨隆を呈し9月10日(40日齢)に死亡。病性鑑定を実施。剖検所見では全身性に水腫様。胸腔内に多量の胸水貯留及びフィブリン析出。心臓は心尖部が丸く、右心及び肺動脈腔は著しく拡張。膜様構造物形成による肺静脈口不完全閉塞と心房中隔欠損を確認。組織所見では右心室心筋線維肥大、肝線維症、肺動脈壁肥厚等がみられ、膜様構造物形成による肺静脈口不完全閉塞とそれに伴う心房中隔欠損と診断。本例は胎子期には動脈管により全身への血流量を維持。出生し動脈管閉鎖後、右心不全症状を呈したものの、心房中隔欠損による全身血流量の確保と肺静脈から流入するわずかな血液流量で1ヶ月ほど生存したと考察。